
夜の闇に紛れて

綾瀬りく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜の闇に紛れて

【Nコード】

N1528F

【作者名】

綾瀬りく

【あらすじ】

ある娼婦が董を差し出した恋人を想う話。董「誠実な愛」

夜の闇の唯一の色彩のようにその花は差し出された。

「ミリア、あげる」

花を差し出したそいつは、闇の下で昼のように笑う。

それが、フェイヴという男だ。

フェイヴと出会ったのは偶然だった。

客引きをしていたあたしに、夕チの悪い酔っ払いが絡んできたのだ。あたしの頬を殴り飛ばし、ビール瓶を振りかざした所でフェイヴが止めた。

「おっさん、少し寝た方がいいぞ」

次の瞬間、フェイヴは酔っ払いを背負い投げていた。頭を強かに打った男は気を失い、のびてしまった。

酔っ払いの連れらしき男が真っ青になって、彼を引き摺って逃げてしまった。

まあ、そんなものはどうでも良かったんだけど。

フェイヴは心配そうにあたしの顔を覗き込む。

「怪我とかしてない？」

そう問われ、あたしは無言で頷いた。

良かった、とフェイヴは笑った。

昼のような笑顔だと思った。

夜に生きるあたしとは世界が違うような。

だが、フェイヴは後々本人も言ったが、あたしの職業に気付いていなかった。

「あんだ、美人さんだから絡まれちゃったんだぞ？」

女の人のー、夜の歩きは危ないから駄目駄目だぞ？」

あたしの目は点になった。

ストリートに美人と言われたのもそうだが、娼婦に向かって夜出歩くなと言う男も初めてだった。

あたしが、自分の職業を告げると、悲しそうな顔をした。いや、いきなり泣き出したのだ。

面喰ったあたしが何故泣くかを聞いたら、泣きつつこう言った。

「だって、そう言ったあんだの心が悲しそうだから。

だから、それが悲しい」

言葉で恋に落ちる、なんてあたしは信じてなかったけど、この瞬間、あたしは恋に落ちたんだと思う。

その後、お互いに名前と連絡先を教え合って、会うようになった。

学生だというフェイヴは今時珍しい純粹培養だったし、馬鹿の度合いもかなりあったけど、あたしはそこがいいと思った。

仕事ではなく、プライベートで抱かれるようになった。

普段は昼しか感じさせない男が、月夜の晩、あたしを抱く時だけ違う顔を見せてくれるのが好きだ。

「ありがとう」

あたしはその花を受け取ると、フェイヴは嬉しそうに笑った。
あたしも自然と笑う。

闇に紛れたスミレからは穏やかな春の香りがして、夜の世界を少しだけ明るくさせた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1528f/>

夜の闇に紛れて

2010年12月14日16時03分発行